

Exclusive All about Shinagawashuku! 地元厳選これで分かる品川宿のすべて!

1千年の歴史をもつまち、品川宿。

このまちは古く平安時代頃から人々が住み始め、鎌倉時代にはすでに湊町として発展し、武蔵の唯一の物流の拠点として栄えた古いまちです。

1601年に徳川家康が「宿駅伝馬制」を定め東海道が日本を代表する街道になると、その第一の駅=宿として、人や物、文化、情報がここ品川宿を中心に行き交うようになりました。益々発展していきました。明治維新以降は、日本が近代化に向けて突き進む中、工業の中心都市へと変貌し、近代日本の経済的発展を支え続けました。しかし

中世以来1千年にわたり発展し続ける

一方で、まちとしての品川宿は余り変わることはありませんでした。21世紀になった今も、相変わらずずっと古くされて、人のぬくもりがあり、同じ日本人から見ても懐かしさを感じる、そんなまちであり続いているのです。

江戸庶民の大レジャースポット。

「江戸」の入口に位置する品川宿は、東西の文化が交流する文化都市として発展しました。また自然環境にも恵まれ、西は御殿山から南へ丘陵地帯が連なり、春は桜、秋は紅葉の名所として知られ、関東一円から行楽の人々が押し寄せました。また東の品川浦は魚介類の宝庫で、釣りや潮干狩り、船遊びの人々でにぎわい、町場には、それらの新鮮な魚介類をふんだんに使った贅沢な料理を出す店や旅籠が軒を連ねていました。つまりここ品川宿は、海、山の行楽があり、町場では

最先端の情報が行き交い、流

行の最先端を知ることができます。

まさに、江戸庶

民には最高のレジャー

スポットとして人気を

集めていたのです。

まち

と

お

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

祭り 祭りを中心に1年が回るまち。

品川宿では年間を通じて多くの祭りが行われていますが、中でも最も重要なのが、6月初旬に行われる品川神社の「北の天王祭」と荏原神社の「南の天王祭」です。どちらも伝統的な祭りで、大きな神輿、町内神輿がまち中を練り歩きます。

品川宿の人々はこの何百年も続く祭りを心から愛し、そして何よりの誇りとしており、1年の暮らしはこの祭りを中心に動いていますといつても過言ではありません。品川宿の魅力を解く第一の鍵は、この祭りにこそあるのです。

品川宿の人々はこの何百年も続く祭りを心から愛し、そして何

よりの誇りとしており、1年の暮らしはこの祭りを中心に動いて

いるといつても過言ではありません。品川宿の魅力を解く第一

の鍵は、この祭りにこそあるのです。

品川宿の人々はこの何百年も続く祭りを心から愛し、そして何

地元厳選

東海道品川宿 なるほどマップ

ようこそ、品川宿へ！

ここ品川宿は、東京の最も先進的なエリアにありながら、昔から変わらない厚い人情と、下町の情緒が色濃く残るまちです。

どうぞ心をときほぐして、ちょっとレトロなまち品川宿をごゆるりと、お楽しみください。

しながわ観光協会



見て
食べて
飲んで
食す

高村智恵子の「レモン」(B-7)
美術家・高村智恵子(1886-1938)が農家の日々を送ったゼムス病院があった場所。矢で彫刻、詩人の高村太郎(1883-1956)が智恵子を描いた詩集「智恵子」は多くの日本人に

東海道品川宿 見所 スポット

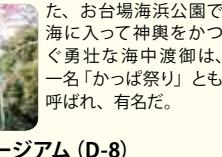
千年の歴史



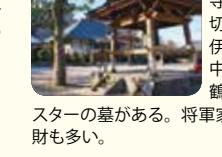
名工、伊豆長八の「こて絵」(D-9)
建物の壁面などを漆喰で仕上げる職人を左官工といふ。伊豆長八(1815-1889)は、木造の左最部に描かれた神奈川の名工で、そのすぐれた仕事は「東海道のフレンスコ画」と呼ばれている。長八は品川宿でもいくつかの仕事を手がけているが、中では春水神社本殿の内扉に日本神話の1シーンを描いた。現在は橋の上には小さな庭園になっている。



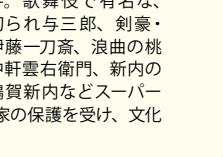
東/南品川の鎮守・荏原神社(C-9)
東品川、南品川地区的氏神様。月初頭の大祭は「南の天神祭」と呼ばれ、子三町会の神輿が連なって練り歩き、大盛り盛りがある。また、お台場海滨公園で海上に浮く神輿をかづく勇壮な海上渡御は、「名づか祭り」とも呼ばれる有名だ。



知恵の神様、虚空蔵尊(C-9)
養顛寺は虚空蔵菩薩と呼ばれるまつれており、13歳でお参りする福徳知恵が授かると伝えられている。4月11日(例年)の13日に近い土日に開かれれる祭は、参拝者でにぎわう。



北品川の古不動様、一心寺(C-9)
東海道の南側にある唯一の寺ごと、本尊は延命地蔵菩薩を授けてくれる不動明王。毎月28日は開帳式。



品川宿の本陣跡(D-9)
本陣とは、江戸時代に大きな宿泊するために使われた施設のことを指す。この辺には、別荘や旅館などがあり、現在は聖蹟公園となっている。この地は、明治天皇が都から東京へ移る際に休息した場所でもある。天皇をまつる「聖蹟」の名が残っている。



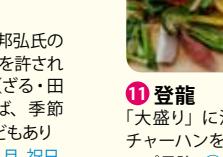
幕末築造の台場の残石(E-11)
東京モニュメント上空を行き来すように、幕末に築造された第四回の台場の残石が、150年の時を経ても残っている。



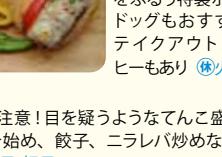
北品川/東品川エリア



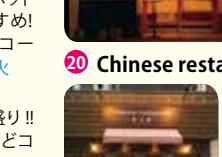
ゴジラの初上陸地点(B-10)
ハリウッドでもリメイクされた世界の人気を誇る日本映画「ゴジラ」。その第一作目で、太平洋上に生まれたゴジラが陸地上に第一次登場したのが、八ツ山陸橋。「シン・ゴジラ」にも登場。



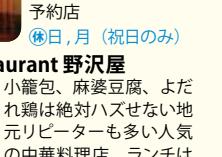
海辺の記念碑、問答河岸(B-10)
三代将軍・徳川家光(1604-1651)が有名な禅僧・沢庵(1573-1645)が禅門を開いたとされる。沢庵が人生の要請を受け目黒川のほとりに東海寺を開いた。



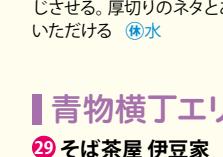
有名人が多く詣る大山祇神社(B-8)
日本で最初にカラスを製造した官能の品川硝子製造所があった場所。当時の通りの造りの建物は、現在は愛知県大山市の明治村に移築されている。



日本のガラス工業発祥の地(B-8)
日本で最初にカラスを製造した官能の品川硝子製造所があった場所。当時の通りの造りの建物は、現在は愛知県大山市の明治村に移築されている。



幕末の史跡、土蔵相模跡(C-10)
1860年の御殿門外の土蔵では戸戸浪士らが、1862年の御殿山下にギリス公使館を設立した際には、高杉文作、伊藤博文ら長州勢が謀議を重ねた経緯跡。



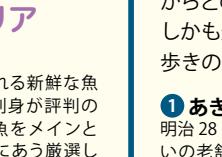
品川の鎮守・品川神社(C-9)
江戸時代の大名・奥平家の菩提寺。境内には、高麗の三大石造の五輪塔を中心としたものがある。



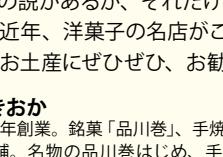
春は桜、秋は紅葉の御殿山(B-10)
江戸時代から行楽の名所として人気のあるエリア。今でも多くの人が訪れる。特に御殿山は、四季の変化が美しい散策が楽しめる。



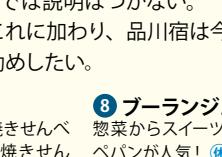
現代美術のメッカ原原美術館(B-10)
斬新な企画展を展開する現代美術専門の美術館。モダンな建物は、1930年に建てられた実業家・原利造の邸宅を改装したもの。ミュージアムショップ、カフェも人気がある。



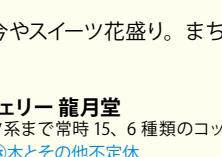
昔の地形が今も残る台場跡(C-10)
台場小学校は、ペリー艦隊を迎えたために築かれた台場跡のひとつ。品川海橋を築いた石や、品川駅のレリーフが校門の右手に残っている。



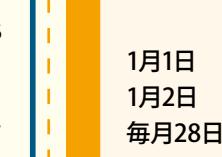
江戸の駆け足、大船の墓(C-10)
11代将軍・徳川家斉(1773-1841)の時代、品川に長18mもの大船が沈没し込んだ。江戸の三大珍釣のひとつ、遠洋の品川漁港で船を泳がせることで有名となり、将軍にも喜び入れた。その船の骨を葬った駆け足が利田神社に残っている。



日本ペインティング明治記念館(B-8)
ペリー艦隊が率いた黒船の江戸潜入に備え、土佐藩が築造した砲台跡。当時の石が发掘され屋外展示されている。



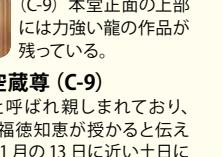
江戸の駆け足跡(C-3)
ペリー艦隊が率いた黒船の江戸潜入に備え、土佐藩が築造した砲台跡。当時の石が发掘され屋外展示されている。



高村智恵子の「レモン」(B-7)
美術家・高村智恵子(1886-1938)が農家の日々を送ったゼムス病院があった場所。矢で彫刻、詩人の高村太郎(1883-1956)が智恵子を描いた詩集「智恵子」は多くの日本人に

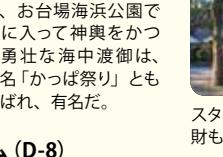
名工、伊豆長八の「こて絵」(D-9)

建物の壁面などを漆喰で仕上げる職人を左官工といふ。伊豆長八(1815-1889)は、木造の左最部に描かれた神奈川の名工で、そのすぐれた仕事は「東海道のフレンスコ画」と呼ばれている。長八は品川宿でもいくつかの仕事を手がけているが、中では春水神社本殿の内扉に日本神話の1シーンを描いた。現在は橋の上には小さな庭園になっている。



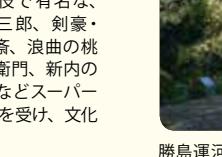
東/南品川の鎮守・荏原神社(C-9)

東品川、南品川地区的氏神様。月初頭の大祭は「南の天神祭」と呼ばれ、子三町会の神輿が連なって練り歩き、大盛り盛りがある。また、お台場海滨公園で海上に浮く神輿をかづく勇壮な海上渡御は、「名づか祭り」とも呼ばれる有名だ。



知恵の神様、虚空蔵尊(C-9)

養顛寺は虚空蔵菩薩と呼ばれるまつれており、13歳でお参りする福徳知恵が授かると伝えられている。4月11日(例年)の13日に近い土日に開かれれる祭は、参拝者でにぎわう。



北品川の古不動様、一心寺(C-9)

東海道の南側にある唯一の寺ごと、本尊は延命地蔵菩薩を授けてくれる不動明王。毎月28日は開帳式。



品川宿の本陣跡(D-9)

本陣とは、江戸時代に大きな宿泊するために使われた施設のことを指す。この辺には、別荘や旅館などがあり、現在は聖蹟公園となっている。この地は、明治天皇が都から東京へ移る際に休息した場所でもある。天皇をまつる「聖蹟」の名が残っている。

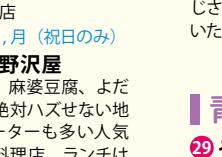


幕末築造の台場の残石(E-11)

東京モニュメント上空を行き来すように、幕末に築造された第四回の台場の残石が、150年の時を経ても残っている。



北品川/東品川エリア



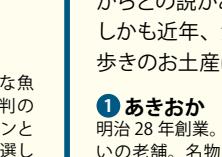
ゴジラの初上陸地点(B-10)

ハリウッドでもリメイクされた世界の人気を誇る日本映画「ゴジラ」。その第一作目で、太平洋上に生まれたゴジラが陸地上に第一次登場したのが、八ツ山陸橋。「シン・ゴジラ」にも登場。



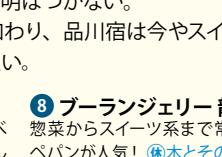
海辺の記念碑、問答河岸(B-10)

三代将軍・徳川家光(1604-1651)が有名な禅僧・沢庵(1573-1645)が禅門を開いたとされる。沢庵が人生の要請を受け目黒川のほとりに東海寺を開いた。



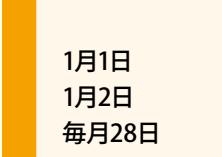
有名人が多く詣る大山祇神社(B-8)

日本で最初にカラスを製造した官能の品川硝子製造所があった場所。当時の通りの造りの建物は、現在は愛知県大山市の明治村に移築されている。



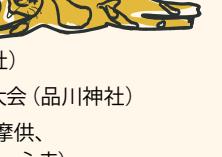
日本のガラス工業発祥の地(B-8)

日本で最初にカラスを製造した官能の品川硝子製造所があった場所。当時の通りの造りの建物は、現在は愛知県大山市の明治村に移築されている。



幕末の史跡、土蔵相模跡(C-10)

1860年の御殿門外の土蔵では戸戸浪士らが、1862年の御殿山下にギリス公使館を設立した際には、高杉文作、伊藤博文ら長州勢が謀議を重ねた経緯跡。



品川の鎮守・品川神社(C-9)

江戸時代の大名・奥平家の菩提寺。境内には、高麗の三大石造の五輪塔を中心としたものがある。

春は桜、秋は紅葉の御殿山(B-10)

江戸時代から行楽の名所として人気のあるエリア。今でも多くの人が訪れる。特に御殿山は、四季の変化が美しい散策が楽しめる。

現代美術のメッカ原原美術館(B-10)

斬新な企画展を展開する現代美術専門の美術館。モダンな建物は、1930年に建てられた実業家・原利造の邸宅を改装したもの。ミュージアムショップ、カフェも人気がある。

昔の地形が今も残る台場跡(C-10)

台場小学校は、ペリー艦隊を迎えたために築かれた台場跡のひとつ。品川海橋を築いた石や、品川駅のレリーフが校門の右手に残っている。

日本ペインティング明治記念館(B-8)

ペリー艦隊が率いた黒船の江戸潜入に備え、土佐藩が築造した砲台跡。当時の石が発掘され屋外展示されている。

江戸の駆け足跡(C-3)

ペリー艦隊が率いた黒船の江戸潜入に備え、土佐藩が築造した砲台跡。当時の石が発掘され屋外展示されている。

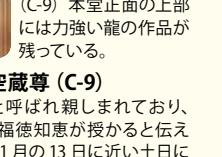
高村智恵子の「レモン」(B-7)

美術家・高村智恵子(1886-1938)が農家の日々を送ったゼムス病院があった場所。矢で彫刻、詩人の高村太郎(1883-1956)が智恵子を描いた詩集「智恵子」は多くの日本人に



名工、伊豆長八の「こて絵」(D-9)

建物の壁面などを漆喰で仕上げる職人を左官工といふ。伊豆長八(1815-1889)は、木造の左最部に描かれた神奈川の名工で、そのすぐれた仕事は「東海道のフレンスコ画」と呼ばれている。長八は品川宿でもいくつかの仕事を手がけているが、中では春水神社本殿の内扉に日本神話の1シーンを描いた。現在は橋の上には小さな庭園になっている。



東/南品川の鎮守・荏原神社(C-9)